令和元年度サケ来遊状況及び令和２年度サケ来遊予測

令和２年８月２８日
宮城県水産技術総合センター

１　令和元（２０１９）年度サケ来遊状況

２０１９年度は河川捕獲が５万尾、沿岸漁獲が２２万尾で合計２７万尾（対前年度比２７％）となりました。また，沿岸での水揚金額は４４７百万円（同２９％）となりました（**図１**）。沿岸漁獲量については，全国では５５，３９２トン※（対前年度比６９％）、宮城県では６５９トン（同２７％）となりました。

※ 国立研究開発法人 水産研究･教育機構調べ

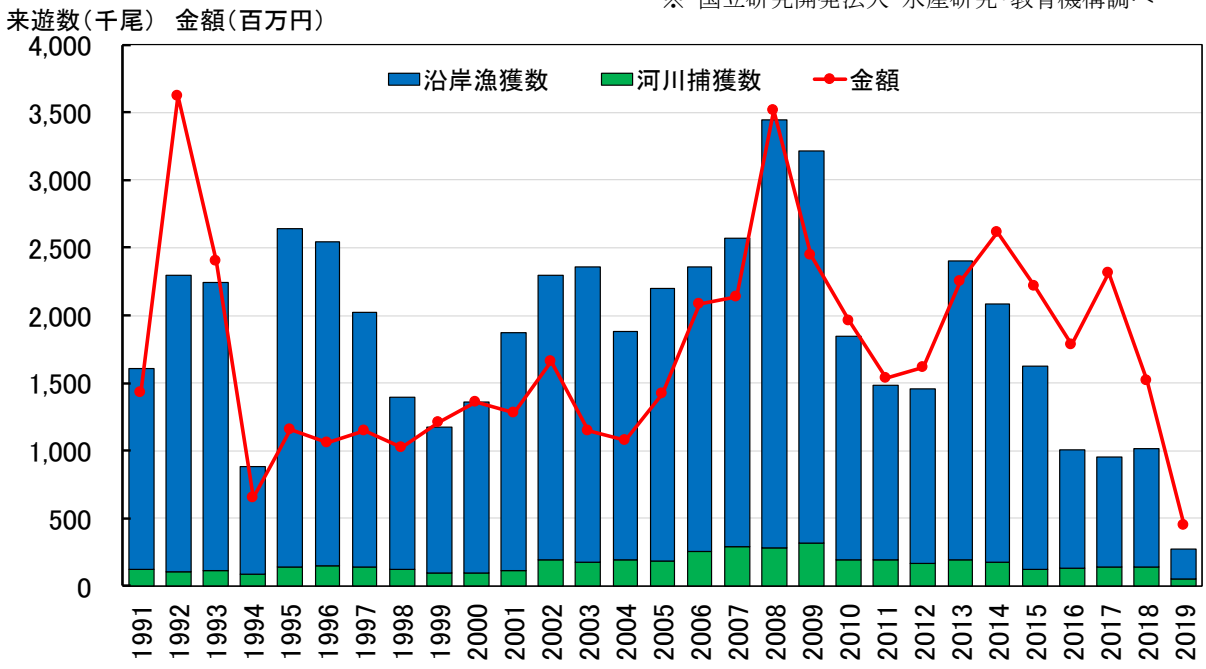

図１． 宮城県のサケ来遊数・水揚金額の推移

本県へ来遊したサケを年齢別にみると，例年，４年魚の割合が高い傾向にありますが，２０１９年度は５年魚の割合が高くなりました（**図２**）。年齢別の内訳では，５年魚が１２万尾（対前年度比９０％），次いで３年魚が８万尾（同１４４％），４年魚が６万尾（同８％），２年魚が８千尾（同２５３％），６年魚が１千尾（同１１％）となりました。

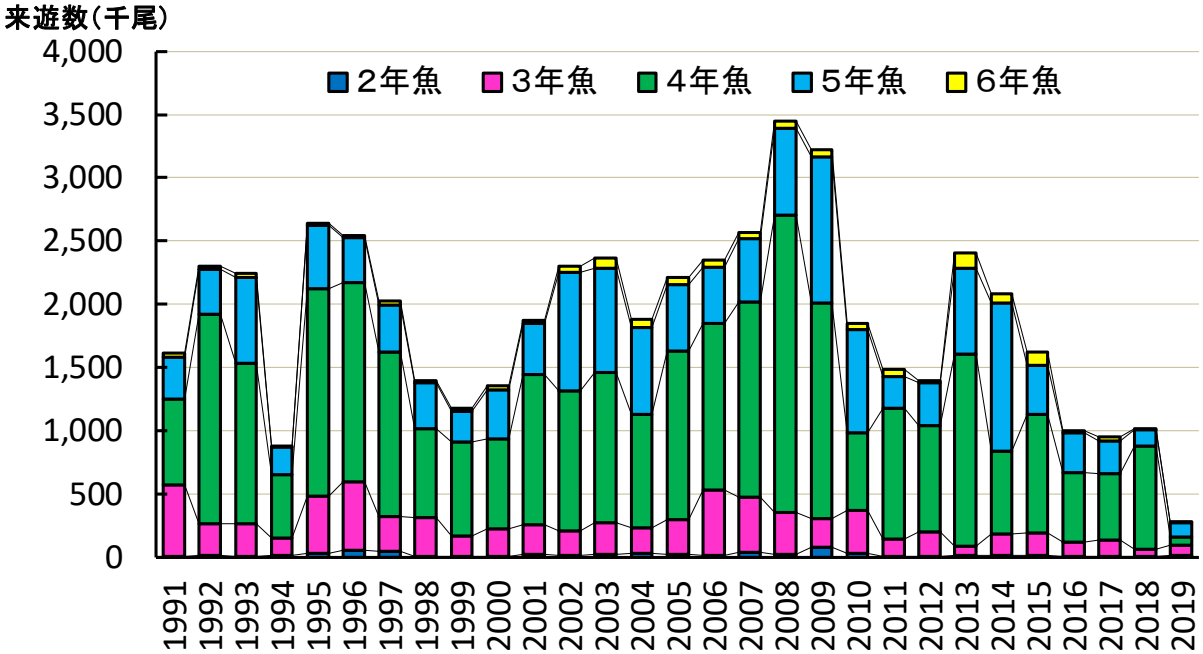

図２． 宮城県のサケ年齢別来遊数の推移

２ 令和元２（２０２０）年度サケ来遊予測

宮城県では２０１４年度から，国立研究開発法人水産研究･教育機構 水産技術研究所（旧東北区水産研究所 沿岸漁業資源研究センター）と共同で「宮城県沿岸における秋さけ来遊数の予測手法の高度化」研究を実施してきました。この共同研究により，我が国周辺水域の漁業資源評価で，多くの魚種系群に用いられているコホート解析（資源量推定手法）をサケ来遊数の予測に応用した結果，２０２０年度は，**６６万尾**（５１～８２万尾の範囲となる確率が約７０％）と予測しました（**図３**）。

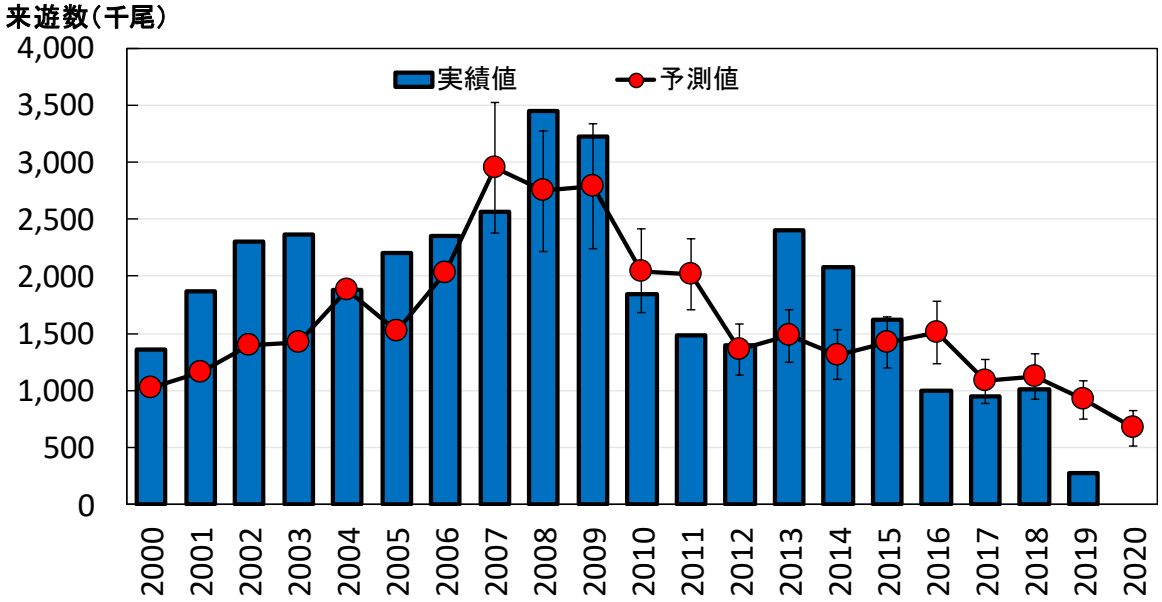

図３． コホート解析による来遊予測値と来遊実績値の推移
2020 年予測値：来遊数 66 万尾（51～82 万尾の範囲となる確率が約 70%）
図中のバーは推定誤差を示す。推定誤差は成熟率の分散を用いてシミュレーションにより推定した。

２０２０年度の予測値６６万尾は，２０１９年度の実績値より高くなっています。しかし，昨年度（２０１９年度）の４年魚の来遊が低水準であったことから，稚魚の放流年が同じ今年度（２０２０年度）の５年魚の来遊が低水準となり，今年度来遊数は予測値を下回る可能性があります。このように，今年度来遊数は低水準と予測されますので，引き続き来遊状況を注視するとともに，計画的な種卵確保と健苗の育成が重要になると考えられます。

＊本県のサケ来遊は秋季の沿岸海況にも影響を受けます。海況の予測については、国立研究開発法人水産研究･教育機構 水産資源研究所（旧東北区水産研究所）が今後，発表する情報等を参考にしてください。

東北区海況情報　http://tnfri.fra.affrc.go.jp/kaiyo/kaiyoubu/predict/index-j.html